

雑司が谷案内処



周辺のおすすめスポットのご案内・郷土玩具すきみみずくなどの販売・雑司が谷ゆかりの作品の展示なども行っています。詳しくはお問合せ下さい。



【開館時間】10:30～16:30
【休館日】木曜日(祝日は開館)・年末
【電話】03-6912-5026

雑司が谷地域の昔と今

1933年(昭和8)の左の地図(豊島区発足直後)と現在の右の地図と比べてみると、大きな変化が見受けられます。根津山(現在の東池袋1丁目から南池袋2丁目一帯)は削り取られグリーン大通りとなり、巢鴨刑務所はサンシャインシティへ、第四小学校(後に日出小学校)跡地に豊島区役所が移ってきます。また、現在の元池袋史跡公園の近くにあった丸池を水源として雑司が谷を流れ下っていた弦巻川は昭和初期に暗渠となり弦巻通りになります。

霊園近くには雑司が谷旧宣教師館、雑司ケ谷鬼子母神堂、大門ケヤキ並木など江戸時代から続く歴史の深さを感じさせてくれます。

雑司ケ谷霊園

御料地として、3代将軍家光の寛永15年(1638)に御薬園となり、8代将軍吉宗の享保4年(1719)には御鷹部屋に変わり、将軍の鷹狩に使う鷹の飼育場所でした。明治7年(1874)9月1日に東京府によって共同埋葬地の「雑司ケ谷墓」として開設、その後明治22年東京市に移管、昭和10年(1935)に「雑司ケ谷霊園」と改め現在に至っています。広さは約10万㎡。

ケヤキやイチチョウ等の古木が多く、春の新緑、秋の黄葉と都心とは思えない自然環境の空間を提供しています。

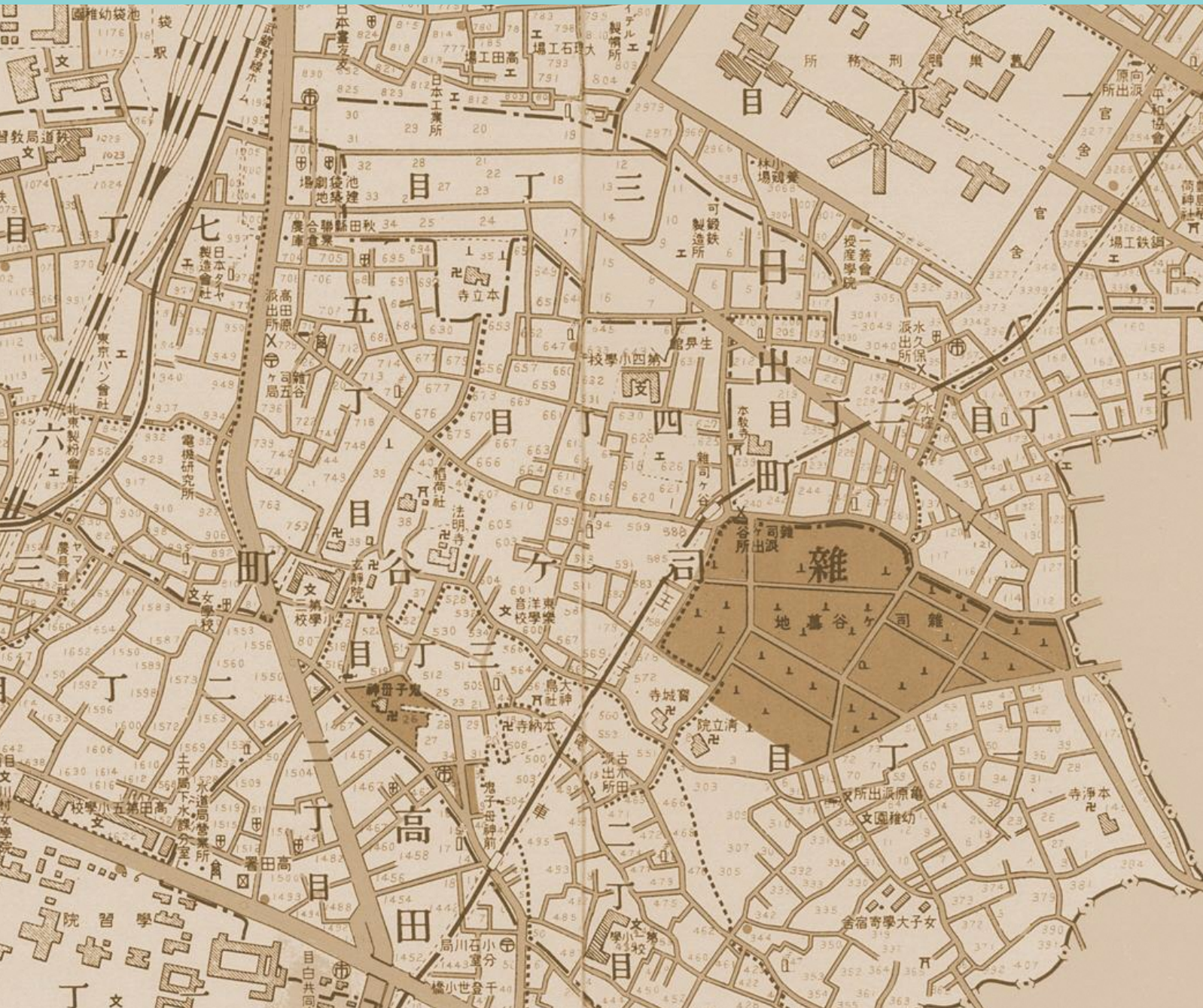
霊園に眠る著名人については地図面をご参照ください。



雑司ケ谷霊園と豊島区役所

雑司ケ谷霊園マップ

豊島区お散歩シリーズ



「番地入新大東京市三十五区分図之内 豊島区詳細図」(部分 1933年発行)
〈豊島区立郷土資料館編集『豊島区地域地図 第1集』(1987年発行)所収のものを使用〉



【発行】 豊島区文化観光課
東京都豊島区南池袋2-45-1
【TEL】 03-3981-1316
【FAX】 03-3980-5160
E-mail: A0014503@city.toshima.lg.jp
豊島区観光案内ホームページ
<https://www.city.toshima.lg.jp/bunka/kanko/>

霊園問合せ:雑司ケ谷霊園管理事務所
【TEL】 03-3971-6868

協力:としま案内人雑司ケ谷



2024年6月発行

ボランティアガイド としま案内人 雑司ケ谷

2011年から雑司が谷地域を案内しているボランティアガイドの団体です。江戸時代から続く雑司が谷の魅力を感じていただけるよう浮世絵、昔の写真、地図等を用意して皆さまをお待ちしています。雑司が谷の昔と今を私たちと一緒に歩いてみませんか?



最新情報は
こちらから!



緑のこみちの会

緑のこみちの会は、1999年、雑司ケ谷霊園を囲むコンクリート塀がフェンスに変更されたのを機に発足しました。毎月第4土曜の9時～10時に、霊園の外周花壇のお世話や外周道路の落葉掃きをしています。みんなで楽しくやっています!

問合せ・事務局:まち処計画室(担当:小口)
【TEL】 03-5875-1672



緑のこみちの会

アクセス

- SA 都電雑司ケ谷から徒歩約2分
- JR 池袋駅東口から徒歩約20分
- Y 有楽町線「東池袋駅」5番出口から徒歩約7分
- 副都心線「雑司が谷駅」1番出口から徒歩約8分

東京都立 雑司ヶ谷霊園 マップ

霊園は故人が眠る慰霊の場所です
節度を持った行動をお願いします



永井荷風
ながいかふう
(1879～1959) **1-1号7測3番**

大実業家の家に生まれ、米、仏を外遊。帰国後は耽美派の文学者として活躍。「断腸亭日乗」には雑司ヶ谷霊園が登場する。生前に埋葬を希望していた南千住の浄閑寺には、筆塚がある。



小泉八雲 (ラフカディオ・ハーン)
こいずみやくも
(1850～1904) **1-1号8測35番**

父はアイルランド人、母はギリシャ人。新聞記者時代に日本の「古事記」などに影響を受け来日、その後、帰化。帝国大学(現東京大学)などで教鞭をふるった文学者。代表作に『怪談』などがある。

ラファエル・フォン・ケーベル
(1848～1923) **1東-6号2測13番**

ロシア出身の哲学者、音楽家。明治26年45歳の時に来日し、以後21年間、東京帝国大学(現東京大学)で教鞭を執った。多くの文化人に影響を与え、夏目漱石も随筆「ケーベル先生」を残している。



夏目漱石
なつめそうせき
(1867～1916) **1-14号1測3番**

現在の新宿区に生まれ、四国松山の教員生活ののち、イギリス留学、帰国後は帝国大学(現東京大学)で教鞭をふるう。その後、朝日新聞に入社し職業作家となり、明治の大人気作家となった。名著『こころ』には雑司ヶ谷霊園が登場する。



羽仁吉一 はによかず
(1880～1955) **1-1号10測42番**

雑誌『婦人之友』を創刊。キリスト教徒として新しい教育を目指し、西池袋に自由学園を創立。当時の校舎、明日館(みょうにちかん)はフランク・ロイド・ライトの設計で国の重要文化財。羽仁もと子の学んだ「明治女学校」の校医は荻野吟子であり、大塚楠緒子も同校で学んだ。



サトウハチロー
(1903～1973) **1-5号25測25番**

戦後歌謡曲「リンゴの唄」から童謡「ちいさい秋みつけた」など、作詞家としても幅広い世代に支持された抒情詩人。若い日の無頼を心配した小説家の父紅緑は、現在の豊島区上池袋三丁目に世帯を持たせた。ラジオドラマ「君の名は」の脚本家菊田一夫も同居。

荻野吟子 おぎのぎんこ
(1851～1913) **1-5号23測35番**

日本初の国家資格を持った女性医師。幾多の困難を乗り越え、医師として開業。その波乱に満ちた生涯は小説の題材としても取り扱われている。地元埼玉県では、塙保己一、渋沢栄一と並び、三偉人として知られている。



中濱(ジョン)万次郎
なかはままんじろう
(1827～1898) **1-15号19測1番**

土佐(高知県)中浜村の出身。14歳の時、出漁で遭難し、アメリカ船に助けられ米国に渡る。米国で航海術などを学び、その新知識と英語力で重用され、のちに通訳として活躍。井伏鱒二の「ジョン万次郎漂流記」で有名。

竹久夢二
たけひさゆめじ
(1884～1934) **1-8号9測32番**

「大正ロマン」を代表する画家であり詩人。「夢二式」の美人画や『宵待草』などの抒情的な詩歌が大流行。若い日に雑司ヶ谷に住む。島村抱月に目をかけられ、また羽仁もと子の「婦人之友社」で絵画主任、さし絵を描く。暁の文字は画家の有島甚馬。



雑司ヶ谷霊園に眠る著名人

番号	名前(五十音順)	墓所番号	
1	天野貞祐	1種8号10側30番	哲学者・教育者
2	伊澤修二	1種10号8側1番	音楽教育者
3	今泉隆雄(いずみたく)	1種5号34側5番	作曲家
4	岩瀬忠震	1種1号8側6番	幕末の外交家
5	大川橋蔵	1種1号13側44番2	俳優
6	大塚楠緒子	1種1号11側9番	詩人・小説家
7	荻野吟子	1種5号23側35番	女医
8	金子馬治	1種1号9側13番	文学者・哲学者
9	川本幸民	1種2号1側3番	蘭学者
10	窪田空穂	1種9号8側20番	歌人
11	ラファエル・フォン・ケーベル	1種東6号2側13番	哲学者
12	小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)	1種1号8側35番	作家
13	サトウハチロー	1種5号25側25番	詩人
14	武林無想庵	1種1号4側24番	小説家
15	竹久夢二	1種8号9側32番	画家
16	網島梁川	1種1号2側6番	思想家
17	東儀鉄笛	1種1号1側11番	作曲家・俳優
18	東郷青児	1種15号19側3番	洋画家
19	永井荷風	1種1号7側3番	文筆家
20	中濱(ジョン)万次郎	1種15号19側1番	初めてアメリカに渡った日本人
21	中村是公	1種2号10側8番	政治家
22	夏目漱石	1種14号1側3番	文学者・哲学者
23	成島柳北	1種4号A6側2番	ジャーナリスト
24	成瀬仁蔵	1種17号6側1番	女子教育者
25	羽仁もと子	1種1号10側42番	ジャーナリスト 自由学園創設者
	羽仁吉一		ジャーナリスト 自由学園創設者
	羽仁五郎		歴史家 羽仁もと子氏の娘婿
26	森田草平	1種東6号3側9番	小説家
27	村山槐多	1種20号6側10番	洋画家

管理事務所オススメ!

雑司ヶ谷霊園の
おすすめスポット



雑司ヶ谷霊園を散策すると、春はつくしやスミレなどの野草が見られ、夏にはセミ時雨、秋には吹雪のように降り注ぐイチョウやケヤキの落ち葉、冬には木々の間を行き来する小鳥など、四季折々の自然が出迎えてくれます。

明治7年(1874年)開園という歴史ある園内にはケヤキやイチョウ、スダジイなどの古木が多く、夏でも涼しげな日陰を作っています。

霊園に眠る故人との会話を楽しみながら静かな園路を歩いていると、ひと時、都会の真ん中であることを忘れさせてくれます。

雑司ヶ谷霊園管理事務所